

(7) 新潟県中越地震

概要

10月23日17時56分頃、新潟県中越地方の深さ約13kmでマグニチュード6.8(暫定値)の地震が発生し、新潟県の川口町で震度7、小千谷市、小国町、山古志村で震度6強を観測したほか、新潟県の各地で震度6弱、東北地方から近畿地方にかけて震度1から5強を観測した。

その後、23日18時11分にマグニチュード6.0(震度6強)、その23分後の18時34分にマグニチュード6.5(震度6強)を19時45分にはマグニチュード5.7(震度6弱)、地震発生から4日後の27日10時40分にもマグニチュード6.1(震度6弱)の余震を観測し、震度5弱以上を観測した地震は19回となり、有感回数は877回となっている。(気象庁調べ：12月28日時点)

被害の状況



【クラックが深く刻み込まれた堤防
(新潟県中之島町(刈谷田川))】



【大規模な地すべりにより発生した
土砂災害(新潟県山古志村)】



【護岸の崩壊により流されそうになっている家屋
(新潟県小千谷市(湯殿川))】

死者 40 名

家屋全壊 2,842 棟、半壊 10,568 棟、一部破損 88,524 棟

公共土木施設被害：河川 413 件等(1月14日現在被害報告)

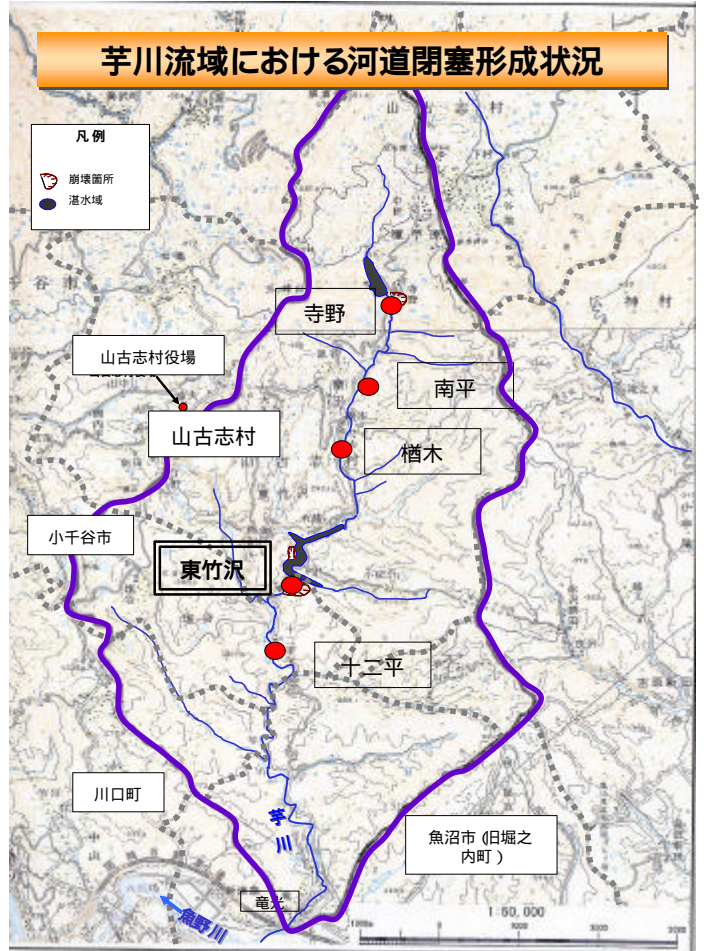
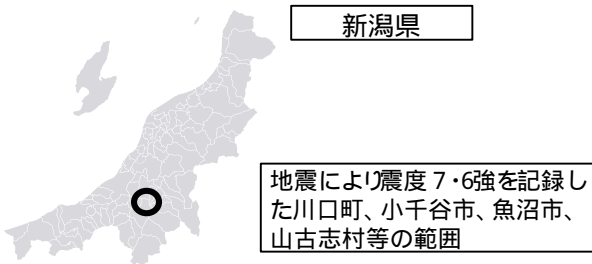
土砂災害発生件数 225 件

芋川流域の河道閉塞対策について

新潟県中越地震にて大規模な崩壊が多数発生した信濃川水系芋川流域では5箇所にて河道閉塞が発生し、集落が水没する等の大きな被害が発生した。

そのうち大規模な寺野地区（最大湛水量約40万m³）と東竹沢地区（最大湛水量約260万m³）については、11月2日の新潟県からの要請を受け、5日に河道閉塞対策について直轄砂防災害関連緊急事業として実施することを決定した。

その後、現地対策を促進させるため北陸地方整備局湯沢砂防事務所内に「芋川河道閉塞現地対策室」を設置し、また、河道閉塞をはじめとする芋川流域で発生した甚大な土砂災害に対し、抜本的な対策等を検討するため、学識者、行政関係者、北陸地方整備局からなる「芋川河道閉塞対策検討委員会」を設置した。河道閉塞への対策としてせき止められた水の越流による閉塞土塊の決壊防止の観点から監視体制の整備を行うとともに排水ポンプや仮排水路の設置等の整備を行っている。



河道閉塞対応状況 (東竹沢地区)

河道閉塞状況 (10/25)



【地すべり土塊により閉塞した芋川 (地震発生2日後の状況)】

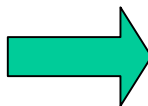


(11/17)



【地震後の降雨等により湛水位は最高でEL=157.7mを記録】

- 緊急排水路
- 仮設排水管
- 仮排水路
- ワイヤースンサー



(12/19)



【緊急排水等の対策により、湛水位を低下 (EL=145m) させるとともに仮排水路を設置】